

FLYING FISH

高知工科大学ニューズレター

60

2014 AUTUMN



土佐からグローバルへ!

本物の価値を世界に伝える
これからのマーケティングとは。

by MASAYASU NAGASHIMA

Delivering the real value
to the world from Tosa!!
What should the future
marketing be?

流通との適切なコラボレーションで 顧客満足を最大化する 「事業プロセス」の構築へ

ながしま まさやす
永島 正康 准教授 マネジメント学部

マーケティングの 本質とは何か

マーケティングは私たちの日常生活に深く関わる学問だ。「身近な現象を掘り下げて、新たな気づきを得た時の知的興奮はたまりません」と永島先生は熱く語る。

「例えば、コーラをスーパーで買えば100円ですが、一流ホテルのプールサイドで注文した、銀食器に入れて運ばれてくるよく冷えたコーラは、1000円を求められても不思議に思わない。それはコーラという液体ではなく、“リッチな一流ホテルのプールサイドで最高においしいコーラを飲む”という体験を買っているから。そこでしか買えない独自の体験だからこそ価値があるのです*1」

マーケティングとは、顧客の立場に立って満足をもたらす価値を提供すること。その観点から身の回りを冷静に眺めれば、世の中のさまざまな事象を読み解くことができる。

永島先生は、自らのこれまでの歩みを“マーケティングに魅せられた人生”と振り返る。パナソニックで30年間デジタル家電の国際マーケティングに携わり、そのうち17年間はフランスに駐在した。

「大学4年生の時、パナソニックに入社した先輩から『ブラジルの未開のジャングルに自社の乾電池を売りに行った』という話を聞き、男のロマンを感じた」と言う。その生き方に強く魅せられ、「自分も海外で可能性を広げたい」と迷うことなく同社を選んだ。

今や日本企業のグローバル化は、大きな変革期を迎えている。技術的に優れた商品だけでは顧客ニーズを満たせなくなり、国際市場で先頭を走っていた日本企業は韓国や中国にかつてのポジションを明け渡している状況だ。「今こそ日本企業は、顧客価値を創造する事業プロセスをグローバルな視野で再構築することが必要です」と話す永島先生。自身もその言葉の通り、同社で事業プロセス変革の取り組みを主導し、グローバル化の躍進に大きく貢献してきた。



流通との協働で トップシェアを獲得

永島先生は実務家だけでなく、研究者としての顔もあわせ持つ。グローバル化を一から体系的に理解したいと1998年に神戸大学大学院経営学研究科の門を叩き、2004年から2011年の3度目のフランス駐在では、ソルボンヌ大学大学院ビジネススクールにて博士号を取得。実務と研究の両面から、“顧客に価値を生む製品やサービスをいかに提供するか”という事業戦略を常に追い求めてきた。その中で、事業戦略に関する理論は数多くあるものの、それを実践に移す事業プロセスに関する先行研究がほとんど存在していないことに着目。事実、企業の現場でも、戦略を的確に実践し、期待する成果を得ることは極めて難しい。

その理由は、事業戦略がマーケティング戦略とその実践を裏で支えるオペレーション戦略によって構成されていることにある。オペレーション戦略には、資材、生産、物流、流通など利害の異なる複数の組織が関係しており、事業をうまく機能させるにはマーケティングとこのオペレーションを一体化させる取り組みが不可欠となる。しかしながら、「生産側はなるべく早く先行する長期のオーダーを確定してほしい。一方、流通側は日々刻々と変化する市場に柔軟に対応したい。こうした異なる行動規範で動いている組織を束ねて一体化するのは、至難の技なのです」と言う。

こうした課題に日々実務の世界で悩まされていた永島先生は、事業戦略をいかに実践するかという事業プロセスの研究に力を注ぐ。

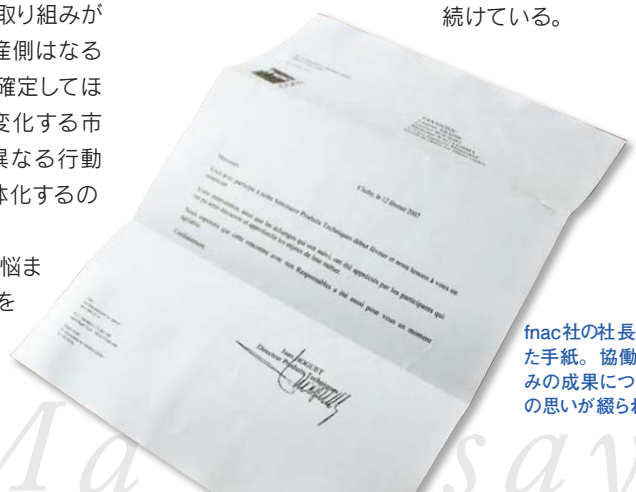


fnac社幹部約300名が参加。メーカーが流通の経営方針発表会に参加するのは異例のことだという。

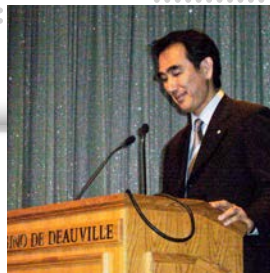
そして、製品の特性、製品のライフサイクル、流通パートナーの選択、協働のレベルといった4要素の整合性を確保する“適切なコラボレーション戦略”の実践を通じて、事業戦略と事業プロセスの一体化が実現できるのではないかとこの仮説を定義した。「先行事例がないなら自らやってみよう」と、フランスの大手流通3社とデジタルカメラにおける協働の取り組みを実践。これらを成功に導き、仮説理論の実証にも成功した。

具体的には、“必要ときに必要な商品を必要だけ顧客に届ける”ことで顧客満足を最大化するという目標を流通側と共有し、商品開発の段階から情報交換を重ね、精度の高い販売予測に基づき自動補充ができる一連の仕組みを構築した。協働開始当初の2004年、フランスにおける同社のシェアは1%だったが、2008年には20%（金額ベース）にまで上昇しトップシェアを獲得。欠品率は5分の1に、在庫は2分の1に減少した。

永島先生はこの事例をモデル化し、家電以外の商品やフランス以外の国などに置き換えながら、現在も幅広い協働プロセスの研究を続けている。



fnac社の社長から届いた手紙。協働の取り組みの成果について感謝の思いが綴られている。



パナニック時代に協働を行ったフランスの大手流通、fnac社の経営方針発表会に出席。両者の取り組みについて、永島先生がプレゼンを行った。



「海外のおもしろさを体感してほしい」と、学生の反応を見ながら、国際経営学の講義内容にも工夫を凝らす。回を重ねるうちに、学生たちも目に見えて生き生きとし始めたという。

高知の一次産品を フランスから世界へ

「高知では何を食べてもおいしい」と高知の食に大きな可能性を感じている永島先生。これから最も力を入れていきたいのが高知の一次産品のグローバル化だ。

「超一流の産品があるのに、地元の生産者さんからは『将来が見えない』という声をよく聞きます。大切なのは、“どのような価値を、どのような顧客をターゲットに、どのように売っていくか”を定義すること。高知の産品の素晴らしい価値を正しく伝えられる流通と組んで、価値を高く認めてくれる顧客に売っていく事業プロセスをつくるのが大切だと思います」

最近では生産者自らインターネットを活用し、ニーズに合った顧客への販売に成功している事例も見られるが、それは国内に限ったことだ。グローバルな展開を始める時に言葉、文化、価値観といった壁をどう乗り越えるのか。そこに永島先生の豊富な経験と力量が大いに生きてくる。

例えば、高知のゆずはフランスの品評会で評価が高く、秘かにブームになっている。これから本腰を入れて世界で販売していくにあたっては、どういう点がポイントになるのだろう。「フランス特有の“本物を評価する力”を最大限に活用することが、成功の鍵です。浮世絵などの日本文化はフランスから世界に発信されていますし、ミシュランのレストランガイドブックといった本物に対する高い評価力は、世界への影響力も大きい。フランスを通して高知の本物を世界に発信することで、その価値をうまく広めることができると確信しています」。

販売・流通までを含めたグローバルな農業のサービス化が実現すれば、日本初の取り組みとなる。「土佐から日本を変え、世界を変える」という意気込みで、農業のグローバル化に挑んでいく。



夢を追いかける人生を 応援したい

永島先生は大学4年生のときに2つの夢を抱いていた。一つは海外で働くことで、もう一つは教員になること。今年4月に本学に着任し、晴れて二つ目の夢が叶った。「これも多くの人たちとの出会いの賜物です」と言う。パナソニック時代に流通との協働が成功したのも、人と人との信頼関係が土台にあつてこそ。大きな組織に属し世界規模のビジネスを手がけながらも、人との出会いを一つひとつ大切にしてきたことが、夢の実現を後押ししたのかもしれない。

教員として新たな道を歩み始めた今の目標は、かつての自分のように世界に羽ばたこうとしている学生たちの夢の実現を支援していくこと。

「これまで窮地に立たされたことは数えきれないほどありましたが、ひたむきに頑張っていれば、有り難いことに必ず応援してくれる人が現れます。これまで失敗した痛い経験も、長い目で見れば人生のプラスになっている。“人生、そんなに捨てたもんじゃないよ”と伝えていきたい」。

永島先生の熱き思いは、早くも学生たちの心に灯をともしつつある。



Professor's personality

趣味の空手との出会いはフランス駐在時代。長男が通っていた空手道場で一緒に習い始めたことがきっかけで、「いつの間にか息子より自分の方がハマっていた」という。3段を有するフランス人の師範と組み手をしたとき、防戦一方の中、正拳突きで一本をとったことが男の勲章。それ以降、「あのときの一本をもう一度」と、闘志を燃やし続けている。

Dr. Nagashima

KUT YOSAKOI 2014



「とぶうお」… 本学学生歌「Flying Fish」をイメージし、伝統的に踊り子隊のシンボルとしてきたタイポグラフ。毎年、衣装や地方車、フラフにこの文字をあしらっています。



地方車… 踊り子隊の先頭を音楽を流しながら走り、盛り上げる。

今年も参加！高知の夏をさらに熱く 第61回 よさこい祭り

今年の「高知工科大学よさこい踊り子隊」のテーマは「舞志〜十八の陣〜（ぶし〜とわのじん〜）」。

高い志を貫いて道を切り拓いていく武士のように、カッコいい新たな工科大のよさこいを見せるとともに、周りで支えてくれる方々への感謝（仁）を忘れずに、元気いっぱい、観客の皆さんと一緒によさこいを楽しみたいという思いが込められています。

8月10日（日）、11日（月）の第61回よさこい祭りでは計13の競演場、演舞場において若さ溢れるエネルギーあふれる踊りで観客を魅了しました。会場まで足を運び応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



本家高知のよさこいを全国にアピール！ スーパーよさこい2014

8月23日（土）、24日（日）に東京都渋谷区で開催された「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい2014」に本学踊り子隊が参加しました。これは、昨年の第60回よさこい祭り本祭において、「審査員特別賞」を受賞したことにより、同祭主催者より招待を受け、参加したものです。

踊り子たちは、よさこい祭り終了後、休む間もなく「高知工科大学のよさこい」を見せるべく練習を重ね、表参道をはじめとした各会場では、大勢の観客を前に精一杯の演舞を行いました。

高知のよさこいとはまた違った雰囲気の中での演舞でしたが、踊り子たちからは、本家高知のよさこいを全国に向けてアピールしようという熱意が感じられました。当日は、多くのOB・OGや関係者の方々にお越しいただき、ご声援をいただきましたことに、あらためてお礼申し上げます。

「舞志〜十八の陣〜」
今年のテーマは



YOSAKOI PHOTO GALLERY



Welcome to KUT!



地域イベントとして今年も盛況！

KUT オープンキャンパス

7月20日（日）、今年度最初のオープンキャンパスを開催しました。

研究室公開、体験授業・体験実験をとおして、ご来場の約1,230名の皆さまに本学で生まれる「未来」を体験していただきました。進学希望の高校生だけでなく、小さなお子様連れの姿も見られ、地域のイベントとして多くの方々にお楽しみいただいたようでした。

高校生からは、「大学生気分を体験し、高知工科大学ではどのようなことができるかが分かり、すごく勉強になりました。充実した一日をありがとうございました。こんな日々をこの大学ですごしてみたいと思いました!」、「気になっていた研究室はとてもおもしろかったし、新たに体験授業を受けておもしろかったものもあり良かったです。」といった感想が寄せられました。



KUT Quarterly NEWS

インカレ四国大会で本学運動部が大活躍！

5月17日(土)～7月6日(日)にかけて、香川県を中心に開催された「第65回四国地区大学総合体育大会」に本学体育系クラブの学生358名が出場しました。本大会は、四国内の大学でスポーツ系クラブに属する大学生が日頃の練習成果を競い合うとともに、大学間交流を目的に毎年開催県を移して開催されています。

上位組常連とも言える卓球部を筆頭に、昨年に続きソフトテニス部が個人戦で藤村拓弥君(マネジメント学部1年)・田中俊輔君(マネジメント学部2年)のペアと男子団体ともに優勝！水泳では男子800m自由形(個人)で西森賢君(システム工学群4年)が優勝するなど、大きく躍進した成果が出たクラブも。

また、本学硬式野球部が6月27日(金)～29日(日)に香川県志度球場で行われた同大会で準優勝。

今大会は四国リーグのⅠ部、Ⅱ部チームによるトーナメント方式での試合でしたが、本学野球部はⅡ部ながら1回戦からすべてⅠ部チームとの対戦となりました。その中で、

今年の春季Ⅰ部リーグの上位校である愛媛大学、四国学院大学に勝利したことは部員にとって非常に大きな自信となったようです。決勝で香川大学に敗れはしましたが、9回表まで1-0でリードと、健闘しました。

全試合でマスクを被った捕手の岡崎大祐君(マネジメント学部3年)は「Ⅰ部のチームとも十分戦えると感じました。早くⅠ部になれるよう、これからも頑張りたいと思います。暑い中、応援に来ていただいた方、またご支援いただいた方、本当に有難うございました。」と意気込みと感謝の気持ちを語ってくれました。

インカレ総合順位
男子総合順位 4位 (参加17大学・昨年度本学6位)
女子総合順位 6位 (参加18大学・昨年度本学6位)



磯部雅彦副学長が土木学会会長に就任

本学の磯部雅彦 副学長が第102代土木学会会長に就任いたしました。

土木学会はちょうど100年前の1914年に設立され、会員数4万人を超える国内最大の学会です。磯部副学長は会長として100周年記念行事の指揮を執ります。

四国地区からの就任は、岡村甫 本学理事長が15年前に務めて以来のことです。



圧巻の作品数500点！模型大展示会

7月13日(日)から8日間、いの町紙の博物館で行われた『高知家の模型大展示会～たまえるか!!しょうまつこと、めったちゃ～』に本学の「模型同好会 KUT-Modeler's」が出展。

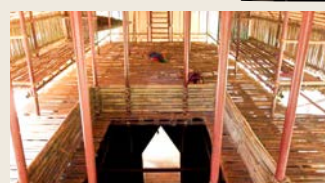
模型同好会から、飛行機や戦車、ガンダムなどのキャラクター模型、約70点を出品。全体では約500点の作品が展示されました。

渡辺准教授が

AZ賞、部門最優秀賞に選出

渡辺菊真准教授(システム工学群)の建設作品『虹の学校 School Floating in the Sky』が“2014 AZ Awards for Design Excellence”の「1000㎡以内の建築施設部門」にて見事、最優秀賞に選ばれました。

同賞は、カナダを代表する建築雑誌 AZURE 主催の国際建築賞で、各部門1点ずつ最優秀作品が選定されます。



今年は36カ国、652作品の応募の中から49作品がファイナリスト選出。この度、各13部門の最優秀賞が発表されました。

渡辺准教授は、「多種多様な参加国の中から最優秀賞をいただき、大変うれしく思います」とコメントしました。

なお、同作品は“2014 Inaugural Architecture Asia Awards for Emerging Architects”のファイナリストにも選出されました。

KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します！

東京大学 濱田総長と語る

6月27日(金)、高知東大会(東京大学 OB 会 高知支部)の招きにより、濱田 純一 東京大学総長が来高。本学にて、「東京大学における学部教育の総合的改革の推進」についてご講話いただきました。本学教職員に加え、高知東大会、高知大学の脳口学長ら学外から多数の方々に参加されました。

ご講話の後、意見交換の場を設け、和やかな雰囲気の中、貴重なお話を伺うことができました。



地域連携カフェを開催

地域連携機構にて、7月2日(水)「地域連携カフェ」を開催。県や地方自治体の公共政策に関る方や、地域活性化でご活躍の学内外の方を講師としてお招きし、意見交換の場となることを目指しています。

今年度2回目の地域連携カフェは、ものづくり地産地消・外商センター 麻岡誠司センター長から『高知のものづくりの新たな飛躍に向けて!～ものづくり地産地消・外商センターの取り組み～』、高知県産業振興センター 企業振興部 川淵孝部長からは『高知から、全国、そして世界へ!第2回こうちビジネスチャレンジ基金事業のご案内』の各テーマでご講話いただきました。

講話後の意見交換では、本学教職員、企業や市町村などの間で活発な議論が繰り広げられました。

地域ぐるみの地震対策を室戸から

7月27日(日)、室戸ジオパーク講演会が室戸保健福祉センターやすらぎ(室戸市領家)にて開催されました。

本学の甲斐芳郎教授(システム工学群)による、地震津波シミュレーションの研究成果の紹介や建物の耐震補強・建て替えなどの地震対策の重要性、これから起こりうる南海地震の予測や対策について科学の観点から説明が行われました。

地域の方々、高校生、教職員ら約100名が参加し、産官学による地域ぐるみで地震・津波への防災意識を共有する有意義な場となりました。



タイ・泰日工業大学 Wimol 氏が来学

現在、泰日工業大学で Assistant Professor として教鞭を執る Wimol San-Um 氏(2010年、本学で博士号取得)が、6月9日(月)～13日(金)の間、来学しました。

泰日工業大学は本学と国際交流協定を締結。毎年実施している海外研修で本学学生の訪問や、同大学主催のサマープログラムに3年連続で本学学生が招待されるなど、活発に交流しています。

Wimol 氏は国際交流関連学長補佐としても活躍。国際交流センター長らとの協議で、「今後も学生交流や研究交流をより活発に行っていきたい。泰日工業大学へ留学したい学生はいつでも大歓迎です」と嬉しいお言葉も。

本学在学中に所属されていた橘昌良教授の研究室では、教え子であるタイ人留学生(泰日工業大学卒業生、現本学修士学生)の研究進捗をたずね、学生や橘教授と夜遅くまで議論を重ねながら研究室同士の交流を深めました。



先川国際交流センター 特任教授担当の「現代社会と国際関係論」では、「Innovation of Future Technology」と題し英語で特別講義。受講した学生から「普段の講義とスタイルが全然違った」、「もっと英語の勉強をしなくては!」、「タイのイメージが変わった」などコメントが寄せられ、大きな刺激となったようです。

医療と工業の連携による共同研究をめざして

平成24年度からスタートした高知大学と本学の医工連携第1回交流会を7月22日(火)、本学にて開催しました。

本学教職員に加え、高知大学の脳口学長ら学外から多数の方々に参加。各大学から2名ずつ研究発表を行い活発に意見交換をしました。今後の医工連携による共同研究に期待が寄せられます。

■研究発表
○「うつ病のイメージング・エビジェネティクス研究」
高知大学 教育研究部 医療学系臨床医学部門 森信繁 教授
○「遠くで近い複素環」
高知工科大学 環境理工学群 総合研究所 物質創成工学研究センター長 西脇永敏 教授
○「幽霊はどこにいる ～脳と怪談の不思議な関係～」
高知大学 教育研究部 医療学系臨床医学部門 古谷博和 教授
○「微小な氷で鮮度を保つ ～スラリーアイス製造装置の開発～」
高知工科大学 システム工学群 地域連携機構 連携研究センター ものづくり先端技術研究室長 松本泰典 准教授

開催まで、あと6年！

2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向け、一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と本学を含む全国552校の大学が連携協定を締結。

締結に伴い、連携大学地域巡回フォーラム「四国ブロック大会 in 高知」を本学 K-HALL にて開催。本学学生が、大会への関わり方について、積極的に意見を述べました。

なお、本学学生の写真が同組織委員会 HP に掲載されています。



四国発の新技术を広く発信

四国地区の五大学、株式会社テクノネットワーク四国および独立行政法人科学技術振興機構(JST)主催による新技術説明会が、JST 東京本部別館ホールにて開催されました。

幅広く企業や共同研究パートナーを募るため、各大学のライセンス可能な特許(未公開特許を含む)を来場の方々に公開、実用化を展望した技術の説明・展示。本学からは、システム工学群 櫻波康文教授による『高速、低消費電力ポリマ光変調器の開発～シリコンフォトリソの限界を越える～』と題した発表を行いました。

日本の科学技術の動向と展望を探る

7月8日(火)、ルーマニアから来日された、ルーマニア国立研究所の首席研究員の Dr.Valentin Craciun に「ルーマニアと米国フロリダでの科学技術、近未来での研究計画」と題してご講演いただきました。バレンティン先生は JSPS 特別研究員として招聘し、7月23日(水)まで山本哲也教授(総合研究所)の研究室に滞在され、研究交流が行われました。

24日(木)、今年度第1回目の研究開発懇話会に独立行政法人科学技術振興機構・顧問である阿部 博之氏(元東北大学学長)を講師としてお招きし、「明日の日本と科学技術のために」と題してご講演いただきました。

日本の科学技術動向を俯瞰し、科学技術政策と今後の展望に至る内容にあらためて認識を深めることができました。その後の質疑では研究者、大学運営側等さまざまな立場での質問や、阿部氏に意見を求める声があがるなど活発な議論が展開されました。

研究開発懇話会とは・・・
本学では、研究開発に関連する話題について、学内外の有識者を招き、気楽に議論する場を設けるため、同懇話会を開催しています。

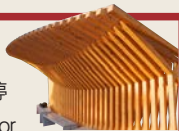


吉田准教授が

数々の賞を受賞！

昨年4月に完成した鏡野公園バス停は、昨年度 Design For Asia Award (DFAA) 2013 MERIT AWARD 受賞をはじめ5つの賞を受賞しました。学生と地域住民にとって利用しやすいバス停整備を目的に本学の吉田晋准教授(システム工学群)がデザイン・設計を手がけました。

今年度はさらに、International Design Award 2013 アーバンデザイン建築プロフェッショナル部門銀賞、第5回木質建築空間デザインコンテスト テーマ部門賞(ランドスケープ)、第5回建築コンクール「翔んでる建築」佳作、第17回木材活用コンクール 優秀賞(一般社)全国木材組合連合会会長賞を受賞しました。



心に響く音楽の調べ in 工科大

8月8日(金)、本学講堂にて、高橋維さん(ソプラノ)、田中拓也さん(サクソフォン)、前田拓郎さん(ピアノ)、山下靖喬さん(津軽三味線)によるコンサート「心に響く音楽の調べ in 工科大」を開催しました。

本学の講義「音楽文化論」の一環として実施し、一般の方にも公開しています。演奏に加え東京藝術大学 佐野靖教授による「うた」と文化・社会のかかわりについての講義や、クラシックから和楽器まで幅広く披露するユニークな趣向を凝らし、音楽をより深く味わうひと時となりました。このイベントの収益は、芸術文化発展のため「高知県文化財団」へ寄付いたしました。



北海道で、YOSAKOIソーラン競演

6月7日(土)、8日(日)の2日間、本学学生11名が北海道札幌市で開催された第23回YOSAKOIソーラン祭りに参加しました。

本学が所在する香美市は、YOSAKOIソーランが縁で北海道積丹町と姉妹都市提携を結んでおり、「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」チームとして平成6年から連続参加しています。昨年に引き続き、同チームに加わった学生たちは、香美市・積丹町の方々と親好を深め、北の大地で本家高知の「よさこい」を魅せるべく、カー杯演舞しました。



全国大会で男女ともに優勝！

8月18日(月)～21日(木)に千葉ポートアリーナで開催された「第54回全国公立大学卓球大会」で、本学卓球部が男女とも、団体戦で優勝！男子は初、女子は3連覇です。

個人戦でも、男子はシングルス、ダブルスともに3位、女子はシングルス、ダブルスともに優勝の見事な成績を収めました。



【濱田美穂監督コメント】

男子は、日々の練習状況から、団体戦で優勝を狙える手応えがありましたが、やはり試合は何か起こるのかわからないので心配しておりました。個人戦で宮本卓也君(マネジメント学部3年)・成田湧介君(マネジメント学部2年)がダブルス3位。シングルスでは、成田君が3位となり、男子での三種目入賞は初めての快挙でしたので、本当に頑張ってくれたと思います。男子は、2・3年生が中心なので来年度も同様の活躍を期待しています。

女子は、松山明花さん(マネジメント学部4年)の活躍で団体戦を優勝することが出来ました。福島舞子さん(マネジメント学部3年)は、今年度、2度目の団体・シングルス・ダブルスの3冠達成です！

男女ともに12月13、14日開催の「南日本学生卓球選手権大会」に向け、頑張ってきて欲しいです。



協働の森づくり事業の協定更新締結式

「環境先進企業との協働の森づくり事業」において、平成20年から継続しているパートナーズ協定更新の調印式を7月18日(金)に執り行い、本学、本学後援会、高知県及び香美市の間で、第3期目の協定を締結しました。

「高知工科大学 ― 物部川共生の森」と名付けたこの協定林は、香美市物部町にある9.6ヘクタールの市有林です。後援会が今後3年間で150万円の協賛金を支出し、森林整備へ充てます。協定に基づき、本学学生・教職員ともに地域住民と協働して物部川流域の自然環境保全のため様々な活動を進めてまいります。

写真は左から香美市法光院市長、本学佐久間学長、本学後援会岡崎会長、尾崎知事



高坂准教授が論文賞を受賞！

システム工学群・高坂達郎准教授が、「日本材料学会複合材料部門委員会論文賞」を受賞しました。同委員会の前身は、1965年に設立された「強化プラスチック部門委員会」で、日本初の複合材料に関する学術組織です。複合材料および関連する材料・構造の複合化・機能化・知能化に関わる諸問題を取り扱い、問題解決のために幅広い研究者、技術者の方々が活発に調査・研究をしています。

この度の賞は、前2カ年以内に日本材料学会誌『材料』に掲載された論文の中で、複合材料に関する研究開発に顕著な貢献をし、学術・技術的に特に優秀な論文の著者に与えられます。

【受賞論文名】
「光ファイバひずみセンサによる樹脂の硬化収縮ひずみ測定」
【受賞者】
高坂達郎 准教授(高知工科大学)
逢坂勝彦 准教授(大阪市立大学)
澤田吉裕 教授 (大阪市立大学)



学校サポーターの学生が先生に



本学では、教職課程を履修する学生が、在学中、実践現場で教師見習いの長期研修を行う「学校サポーター」を導入。これまで100名以上の学生が高知県内の小学校、中学校、高等学校にて研修しています。

今春から、同じ香美市に所在する教育機関として、本学地域教育支援センターと山田高校との連携を模索。6月19日(木)～7月1日(火)、学校サポーターの学生らが先生役として、山田高校1年生約40名を対象に、英語などの3教科の放課後補習を実施しました。物理準備室を「高知工科大学学生研究室」として提供いただき、補習だけではなく、高校生から大学についての質問も受け付けています。

また、7月7日(月)には、数学や物理の補習を実施。生徒からの質問に学生が熱心に答えていました。

今後も継続的に取り組んでいく予定です。



2014年 学生優秀発表賞を受賞

河野紘基さん(大学院工学研究科 基盤工学専攻 修士課程 電子・光システム工学コース 1年/山本研究室)が、日本地球惑星科学連合2014年大会の宇宙惑星科学セクションで「学生優秀発表賞」を受賞しました。

同賞は、学生個人の能力に主眼をおき、発表の論理構成・研究目的と結果の明瞭さ・当該研究分野発展への貢献度・既存研究の知識に加え、学生の主体性を重視し、受賞者を決定しています。このたび、宇宙惑星科学セクションでは、13名が受賞。その中の一人として河野さんは、「小型気球搭載を目的としたテレメトリおよび簡易運用システムの基礎開発」についての発表で選ばれました。

受賞に際し、「この度は、栄誉ある賞をいただいて気が引き締まる思いです。今後も研究に励んで成果を残したいと思います。」とコメントしています。



YOSAKOI サマースクール 雨にも負けず交流深まる

今年度で3回目となる「YOSAKOI サマースクール」が8月3日(日)～12日(火)に行われました。今回は、独立行政法人科学技術振興機構の平成26年度「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」の支援を受けての実施です。

国立木浦海洋大学(韓国)、安徽大学(中国)、キング・モンクット工科大学トンプリ(タイ)、バンドン工科大学(インドネシア)、カンボジア工科大学(カンボジア)、ミズーリ大学セントルイス校(アメリカ合衆国)、ウエスタンシドニー大学(オーストラリア)から学生が来高。本学学生とともに授業、文化交流、研修旅行、よさこい祭り等に参加しました。



台風の影響で天気に恵まれない中、メインイベントのよさこい祭りは予定どおり行われ、よさこい独特の雰囲気にも学生も大喜び。観客や他の踊り子の方々と一体となって祭りを盛り上げました。

始めのうちは、言語の壁に思うようにコミュニケーションが取れない学生も多くいましたが、日に日に交流を深め、最終日には空港で涙を流しながら別れを惜しんでいました。



イイセンスイ Vol.10

まだまだ、足りない！

先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイセンスくらい語ってもらいました！

今回言い過ぎる人

つつい やすたか
筒井 康賢 センセイ



高知工科大学の学生は、絶対的に日頃の勉強時間が短い。残念ながら、「こいつはしっかり勉強しているなあ」と思う学生にはお目にかかれない。

こんなことがあった。2クォータ開講の講義を急速引き受けることになった。その試験を手書きノート持ち込み可として行った。板書したままの問題には答えられるが、少し変えると途端にできなくなる。期末試験などいっときの記憶だけですり抜ければ良いと思っている学生が大多数ではないか。徹底的に時間をかけて勉強すれば、それまで理解できなかったことが、もやが晴れるようにわかってくる。それから少しずつ自信が持てるようになり、それで世界が開けてくる。

世の中には頭の良い奴はいっぱいいる。しかし、彼らが時間をかけて勉強するとは限らない。彼らの3倍の時間をかけて勉強すれば、彼らに勝てる。「勝てる」ではわかりにくいなら「より充実した人生を送ることができる」。

「大学で勉強したことは全く役に立たなかった」という大人がいるが、彼らが「役に立つところまで勉強しなかった」証拠に過ぎない。徹底的に時間をかけ、かつ集中して勉強する。それを毎日繰り返す。勉強を終えて床についても興奮して寝付けない。そういう体験をまずはしてみるべきだ。また、こんなこともあった。4年前、当時の3年生を日本ガスタービン学会の教育シンポジウムに参加させた。そこではガスタービンの講義と、M社のガスタービン工場の見学もあった。そのシンポジウム後、一人の学生が、私の部屋にやってきて「M社でガスタービンの開発するのはどうすれば良いか」と言うので、あるアドバイスをした。彼のやる気に火が点いて猛然と勉強を始めた。

我が身に教師としての責任はないかと問いかけてみれば、確かに教え込むことはしっかりやったが、こんなやる気を引き出す好例があったのに活かしきれなかった。やる気を引き出す努力も工夫も欠けていたことは間違いない。思いだしてみると、自分自身が本当にやる気になったのは、ちょっとしたきっかけであった。

学生であるという時間を徹底的に使い倒そう！



2代目イイセンスジャッジ
高知工科大学 入試・広報部 土江

Flying Fish Festival 2014

大学祭のテーマ

home

こどももおとなも
おばあちゃんも
アットホームな
大学祭



第18回 高知工科大学大学祭

10/18(土) 10:00-19:05
10/19(日) 10:00-19:30

We will hold the "FFF" again this year. please come by all means!

EVENTS

- ・学生団体の発表・展示
- ・模擬店
- ・フリーマーケット
- ・未来公房
- ・救急防災フェア
- ・献血 & 骨髄バンクドナー登録会
- ・エイズ・感染症予防キャンペーン
- ・打ち上げ花火 in KUT ◀19日(日)

STAGE EVENTS

- ・アーティストライブ in KUT
- ・山田太鼓演奏
- ・ピンゴ!豪華賞品を手に入れるのは誰だ!?
- ・吉本お笑いライブ
- ・アムレストーンメント
- ・Ms. Mr. 工科大 他

詳しい情報はホームページで随時更新中!
http://www.ugs.kochi-tech.ac.jp/gakusai/index_pc.html

高知工科大学 学祭

検索

香美市商工会
「刃物まつり」も同時開催!
10/18(土) 19(日)
両日とも10:00-17:00

【場所】工科大となり鏡野公園
【入場料】無料



見たい! 聞きたい! 知りたい! 工科大あちこち探訪レポート

KUT 学生特派員 報告 SPECIAL REPORT

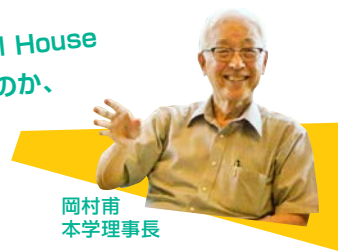
REPORT 20

世界はすぐとなり!
グローバルな仲間と交流しよう!



五代目学生特派員
左から/武市 清高(情報学群3年)
塩見 侑司(情報学群3年)
上総 穂椰(マネジメント学部3年)

平成25年9月に完成した
国際交流会館・International House
どのような目的で建設されたのか、
その経緯とこれからの
活用方法を考えます!



岡村甫
本学理事長

知る!
国際交流会館とは?!

本学キャンパス西側に新設された国際交流会館。4階建て、全84室の学生寮です。現在は、留学生35名、日本人学生14名、計49名が住んでいます。新設の経緯について、岡村甫理事長にお話を聞きました。大きな理由の一つは、SSPの留学生へのバックアップだとおっしゃいます。

見る! 聞く!
国際交流会館へGO!

館内には、交流の広場や卓球台等があり、寮生以外の学生達とパーティーをしたり、レクリエーションができます。茶室も隣接していて、留学生も日本文化にふれられます。2階の各部屋にはキッチンがあり、1・3・4階のラウンジにも共同キッチンが備えられています。全室、オートロック式のセキュリティで、館内への入退出は、学生証をかざすと出入りができる仕組みです。



王 玲玲(ワン リンリン)さん
中国出身
農業経済学を学ぶ博士学生
渡邊研究室所属

ウナブーン チャチャイさん
タイ出身
電子工学を専攻の修士学生
橋研究室所属



実際に入居する留学生へインタビュー!
武市「国際交流会館の住み心地はいかがですか?」
王さん「部屋がオートロック式なので学生証を忘れると大変ですが(笑)、勉強するにはとても良い環境だと思います。普段は部屋にあるキッチンで中国料理などを作っています。」
ウナブーンさん「とても安全で快適です。食事は、基本的に大学食堂でとりますが、週2回ぐらい友人とタイ料理を作ったりします。」
武市「日本人の学生と交流する機会はない?」
ウナブーンさん「この会館に住んでいる学生と卓球をしてコミュニケーションを取っています。いい気分転換になりますよ!」
王さん「旧正月の時、いろんな人を招待してパーティーをしたり、研究室の人たちと交流を深めたり、とても楽しいです。」



◀国際交流会館で行われたタイの伝統行事ソングランの様様

身近な国際交流を、まずはここから!

岡村理事長は、「もつと国際交流会館を知ってもらい、コンスタントに交流ができるといい。国際交流のためのイベントやサークルを立ち上げるのも面白い。」とおっしゃいます。
みなさんから話をお聞きして、もっと交流の機会を増やすべきだと思いましたが、そのためには、いろんな人にこの会館のことを知らせる発信者が必要だと感じます。今や、国際社会に通用する人物が必要な時代。異なる文化や価値観への理解や関心を深める場として、この会館を活用しましょう! 興味がある人は、ぜひ国際交流会館を訪れてみましょう!

ジ ッ カ ン n o t e

武市 留学生の話を聞き、国際交流会館で生活し、英語力を身につけたり、イベントをしてみたいと思った!
塩見 国際交流会館で誰でも参加できるイベントがあることを初めて知った。行ってみたい!!
上総 留学や入居の予定がないと国際交流の機会がないと思いがちだけれど、たくさんイベントがあるので、是非多くの人に参加してほしい!



world wide!

*SSP(博士後期課程特待生制度)とは...
2003年に新設された制度。世界中から優秀な学生を集め本学の研究活動の一翼を担うことを期待しています。

がんばっちょね!

工科大 14

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回の
インタビュー

施設管理部

濱田 零華

今回は、香美市で暮らす人々の声に耳を傾け、悩みに寄り添いながらお仕事をされている、香美市社会福祉協議会事務局長の徳弘博国さん。本学と、ボランティア活動や学生の地域支援活動などで幅広く交流させて頂いています。徳弘さんとは、約10年前に障害者福祉の仕事をご一緒に以来のお付き合いです。人懐っこい笑顔は昔と変わらず、柔らかな物腰して、学生や香美市で暮らす人々への想いを語って下さいました。



—— 香美市社会福祉協議会（社協）のお仕事について教えてください。

この香美市で暮らす人々のなかにも、生活を営む上で様々な課題を抱えた人達が居ます。社協では、人・モノ・地域など色々な要素を繋いで、“こんな方法あるで、こんな人もおるで”といった課題解決に向けた支援を行っています。

—— 社協さんは、ボランティア活動の拠点でもあると思いますが、工科大生の参加は増えてきていますか？

最近では、東北の放射能被ばくによって健康不安を抱えるご家族を招き、香美市の自然のなかで心身のデトックスをしてもらう保養キャンプ「高知のびのび青空キャンプin香美」が行われ、

工科大生の発案によっしや、やろう！と触発される

工科大からは15～20名ぐらいの学生さんが毎年参加してくれています。今年は、1年生の時から参加してくれているマネジメント学部の学生さん2人が、「もっと深く関わりたい」と言ってくれて、実行委員会に加わって募金のお願いや、学生へのコーディネート役をしてくれました。企画段階から長い時間をかけて関わってくれることで、大人達とも良好な関係を築けていました。学生さんの成長を感じることができて、すごく嬉しかったですね。

—— 工科大生の印象はいかがですか？

一言でいうと、「品がいい!」。高知市内から最終列車で土佐山田に帰るとき、工科大生と一緒にいるんですよ。チャラチャラした若者って、周囲に不快な思いをさせてしまいがちだけど、工科大生にはそれがない、明るさと礼儀正しさを共に持っている印象です。

キャンプに参加してくれる学生さんや、KPAD（防災ボランティア団体）もそうやけど、学生さん側からこんなことやりたい!力を貸してほしい!と社協に相談してくれるのは、とてもありがたいことです。学生さんの発案と要請って、“よっしや!やろうやないか!”という気持ちにさせてくれる。

—— 本学や本学の学生に期待することを教えてください。

工科大生もこのまちの住民だし、元気な若者がいれば、悩みのある子もいる。僕たちは、誰かを支えたいと思っている人も、支えを必要とする人も両方を支援するし、人と人を繋いでいく。それが社協の役割だと思っています。工科大に期待されちゃうことって、もっと全県下的なことかもしれないけど、香美市を構成する一資源として、一緒になってこのまちを盛り上げて行けたらいいなと思っています。



インタビューを
終えて

社協さんは、いわば現代人の悩みや相談を引き受ける“駆け込み寺”のようです。紙面では紹介しきれないほど、沢山の事例を基にお話して下さり、工科大生のことを香美市を構成する一つの資源として受け入れ、その成長を暖かく見守って下さっていることがよくわかりました。徳弘さんから“もっともっと頑張れよ”と励まされた気がします。地域に溶け込み、地域とともに学生が成長していってくれるよう、大学職員として、また香美市民として全力を尽くしたいと思います!(濱田)

応援団員 香美市社会福祉協議会 事務局長

14 徳弘博国さん